

# （仮称）古賀市生涯学習センター（地域交流センター）及び周辺施設整備事業について

提案の考え方を記載してください。文章を補充するための最小限の写真、イラスト、イメージパース図、簡単な各階平面図等は使用してよいが、模型（模型写真含む）は使用してはいけません。

## かたちをつなぐ 空間をつなぎ活動を見せる、新たな顔となる施設作りを提案します



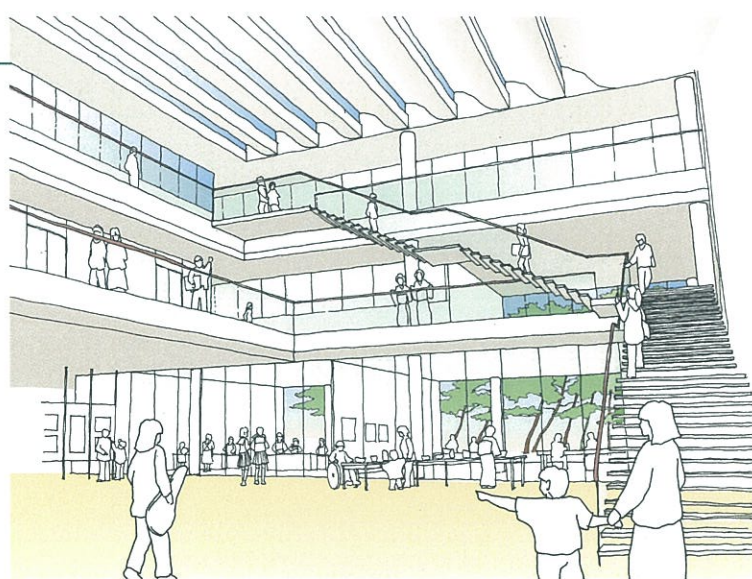
玄界灘に望む花鶴浜の白砂青松のイメージに重ね、  
浜辺の白波、松葉から零れ落ちる木洩れ日のように、透過感のあるファサードでつなぎます。

生涯学習センターによってつながった新しい顔

### 松の下に集い学ぶ、施設をつなぐ顔づくり

#### 場所の記憶とつながり、活動が見える新たな顔

- ・独立した既存建物の間を横につなぎ、牟田栗原景観形成軸に沿った新しい街並みの顔をつくります。またこの顔を新たな全体の玄関口とします。
- ・場所の記憶でもある松を残し、水平に枝を伸ばす松の景観ともつながる横に伸びる大きな庇を広げ、その下の活動を見せることで“松の下に集い学ぶ姿”を象徴します。

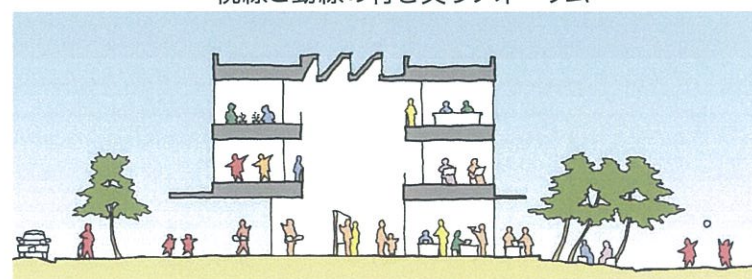


視線と動線の行き交うフォーラム

### 多様なつながりの中に活動が生まれる空間構成へ

#### 視線をつなげ、活動をつなげる

- ・既存研修棟の「各階が分断され、互いの活動をうかがい知ることのできない空間構成」から、「互いの活動が見え、新たな活動へとつなげることのできる空間構成」へと転換を図ります。
- ・内部では、活動的な1階から落ち着いた3階まで、階毎に少しずつ性格を変えながら、フォーラム（屋内広場）の吹抜を中心に動線と視線が立体的につながる空間構成とします。
- ・外部との関係においても、フォーラムを中心に、正面のエントランス広場から裏の屋外広場へとつなげることで、内と外、文化とスポーツ、静と動などの性格の違う活動がゆるやかにつながる空間構成とします。



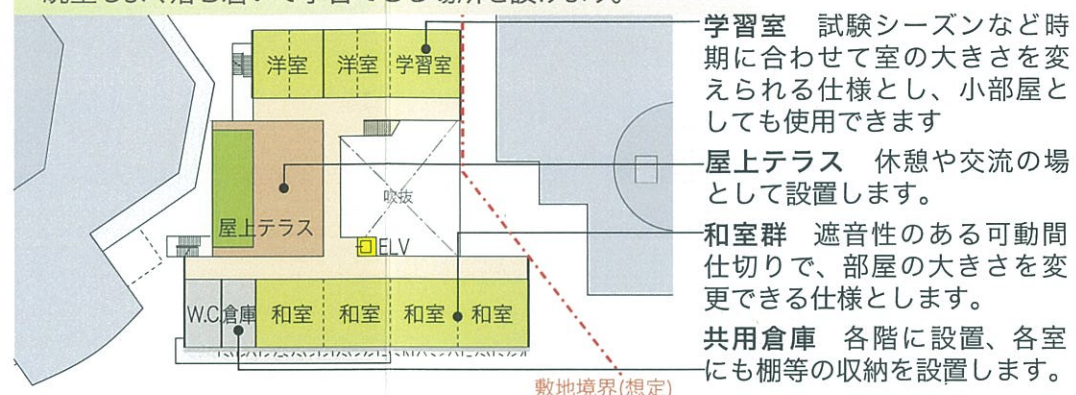
エントランス広場からスポーツエリアまで  
多様な活動がつながる空間のイメージ

### 多様な活動に対応した平面計画

同じ特徴を持つ諸室を階毎に集約しながら互いの活動を見える化します。また多様なニーズに合わせ自由に活動ができる計画とします。

#### 3階：落ち着いた集中できるスペース - 和室、囲碁室、学習室

和室ゾーンを集約、自由に分割使用できる計画とし、眺望もよく落ち着いて学習できる場所を設けます。



- 学習室 試験シーズンなど時期に合わせて室の大きさを変えられる仕様とし、小部屋としても使用できます
- 屋上テラス 休憩や交流の場として設置します。
- 和室群 遮音性のある可動間仕切りで、部屋の大きさを変更できる仕様とします。
- 共用倉庫 各階に設置、各室にも棚等の収納を設置します。

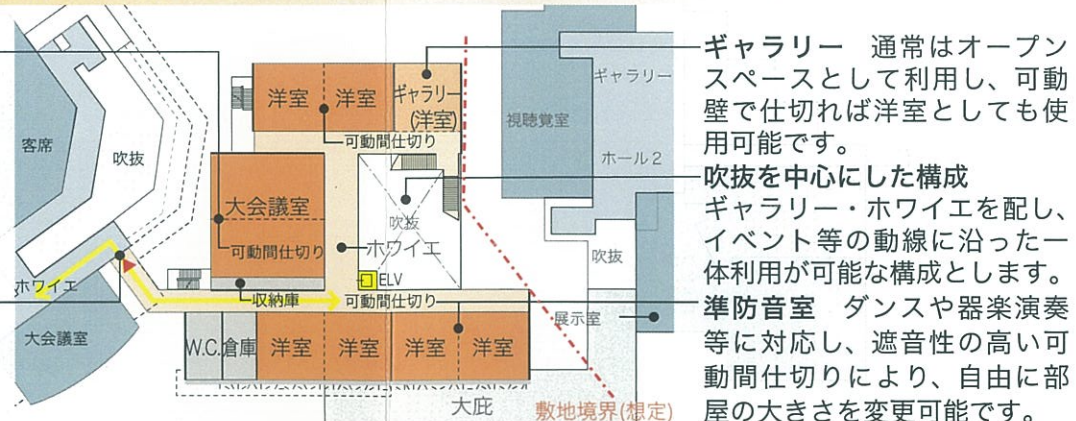
#### 2階：様々な目的にフレキシブルに対応するスペース - 大会議室・洋室

大会議室を含めた各室間は、可動式間仕切を採用し、使い方に合わせた面積設定を可能とします。

大会議室 大人数の使用に対応してホワイエ空間を備えると同時に、利用率向上のため分割使用も可能な形態とします。



中央公民館の2階との動線 動線のバリアフリー化と大会議室間の連携により利用者の利便性向上を図ります。



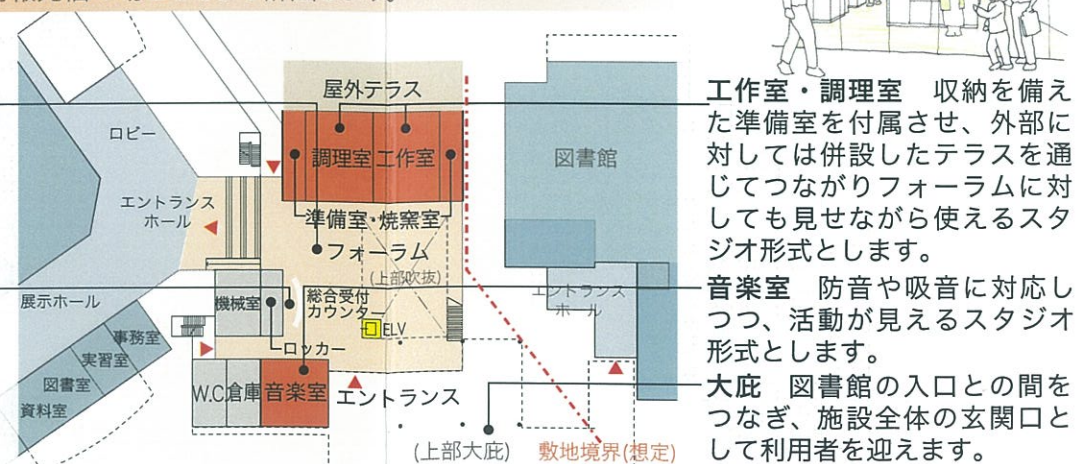
- ギャラリー 通常はオープンスペースとして利用し、可動壁で仕切れば洋室としても使用可能です。
- 吹抜を中心にした構成 ギャラリー・ホワイエを配し、イベント等の動線に沿った一体利用が可能な構成とします。
- 準防音室 ダンスや器楽演奏等に対応し、遮音性の高い可動間仕切りにより、自由に部屋の大きさを変更可能です。

#### 1階：屋外ともつながる活動的な賑わいのスペース - フォーラム（屋内広場）、音楽室、工作室・調理室

利用率が高く、活動の見えやすい諸室を配置し、施設・さらにはゾーン全体の賑わいを演出、外に対して見せる、文化的な情報発信の場となるよう計画します。

フォーラム ギャラリー等情報発信の中心となるだけでなく、上層階の見える化とイベントでの活用も考えた立体的な構成としています。

総合受付カウンター エントランスのフォーラムに面し施設全体の管理を行いながら、ゾーン全体の案内を行うことのできる配置としています。



- 工作室・調理室 収納を備えた準備室を付属させ、外部に対しては併設したテラスを通じてつながりフォーラムに対しても見せながら使えるスタジオ形式とします。
- 音楽室 防音や吸音に対応しつつ、活動が見えるスタジオ形式とします。
- 大庇 図書館の入口との間をつなぎ、施設全体の玄関口として利用者を迎えます。